自－

2024 年 6 月 22 日

2024 年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名　NPO 法人丸亀街づくり研究所
ホーム名　自立援助ホーム nature
代表者・役職名 氏名 施設長 野口孝子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書（精算報告書以外）は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真（2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します）を添付して下さい。

1. 助成事業の名称

皆が集い憩いの場となるための環境整備偉業

2. 自立援助ホームの概要（創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで）

平成 23 年に NPO 法人を設立し、自立援助ホーム（丸亀おひさま荘）が開所され活動を開始する。平成 29 年にはアフターケア事業所を開所する。その後丸亀おひさま荘は、一時保護委託児童や市町からのショートスティとしての利用者が増えたため、令和元年 11 月に当施設が入所児童を念頭に自立援助ホームとして開所した。

3. プロジェクトの目的とその背景（※応募申請書に記載のものでも可）　250文字程度まで

当施設はアパートを利用しており、利用者達は普段は各自の部屋で過ごしているが毎日の食事やイベントの際には職員用の 1 室のリビングに来て話をしており、憩いの場となっている。開設後利用者は男子ばかりであったことや経年劣化してきたため、床や椅子の傷みが目立ってきた。今は女子の利用者が増え、関係機関からの見学や入所の相談も増えてきたり、退所者との行事、地域の方との交流もできるようになった。改修することで優しい雰囲気を作りして、当施設の役割を広げて深めていきたい。

4. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可）　300文字程度まで

自立援助ホームは利用者への支援、退所者へのアフターケア、地域との交流、関係機関との連携、入所を希望する児童との関わり等、今後もニードは継続していくと思われます。特に家族と離れて集団生活をするとなると大きな決断が必要となります。施設見学の際には大きな不安を感じて来所されていると思いますので、迎える側の施設の職員としては、対応や関わり方を工夫していますが、相談者の目からの第一印象は大事であり、ハード面とソフト面の足並みを揃えていきたいと考えています。まずは明るい雰囲気のリビングを見ていただき、不安を軽減してもらい本人の決断の一助にしてもらえたらと思っています。また将来を見据えて 1 階リビングにおいて、床（クッションフロアの張替え）、椅子（買い替え）12 脚、テーブル（買い替え）2台、センターラグ2枚としました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

結果…法人総会や外部関係機関の施設見学後の意見交換の場として選ばれたり、施設利用者たちが食事以外の時間も雑談や娯楽の時間を過ごしたりするようになった。（各種会場として 3 回。参加者総数 17 名。）
成果…座り心地が格段に良くなったという声が利用者たちから続々と上がった。快適な共有空間になることで利用者同士の交流はもちろん、施設内外の会議の場としても利用される頻度が増えつつあるように感じている。
効果…現状、施設利用者や施設退所者、既存の関係機関までの利用に留まっている。今後施設を退所した利用者たちが、また顔を見せに来たいと思えるような環境つくりの一歩として、今回のプロジェクトを活かしていきたい。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など　300文字まで

プロジェクトの実施・進行について、法人内や既存の関係機関などには周知・報告が出来た。しかし、他の法人が積極化している SNS 等を通じた情報発信を用いることは出来なかった。プロジェクト後の日常や、これまでとの変化をより身近に感じてもらえるような工夫が必要だと感じた。

7. 参考資料：プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。